

令和5年度

我孫子市中学校部活動地域移行に関するアンケート

- | | |
|--------|---|
| ◆ 実施期間 | 令和5年9月20日～令和5年10月20日 |
| ◆ 対象者 | 我孫子市内中学校1・2年生生徒 1892人（9月30日の在籍数）

我孫子市内中学校1・2年生生徒の保護者 1892人

※生徒1人につき保護者1人として計算 |
| ◆ 回答数 | 中学校1・2年生生徒 1493人（1892人中78.88%）

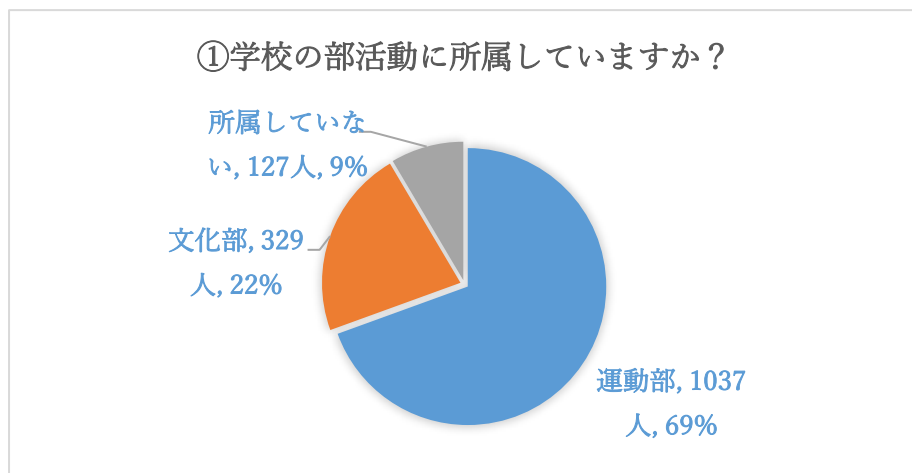
中学校1・2年生保護者 1224人（1892人中64.46%） |

我孫子市教育委員会指導課

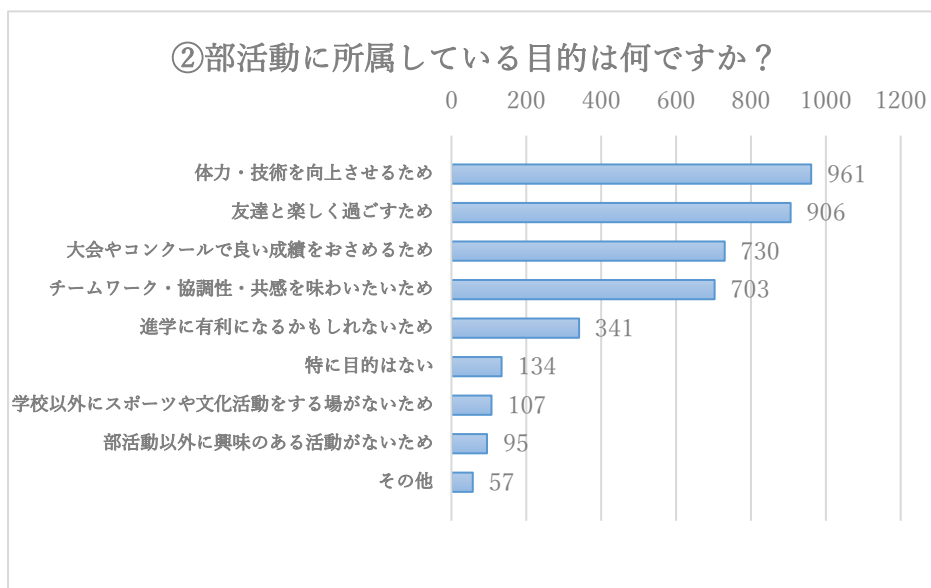
令和5年11月16日（木）

1 アンケート結果

(1) 中学校1・2年生生徒の回答結果



約9割の生徒が部活動に入部している。運動部が約7割、文化部（吹奏楽、合唱、美術等）が2割の入部状況である。ほぼすべての運動部が休日に活動しており、文化部では、吹奏楽や合唱、演劇が活動している。そのことから約8割の中学生は、休日に活動していることがわかる。

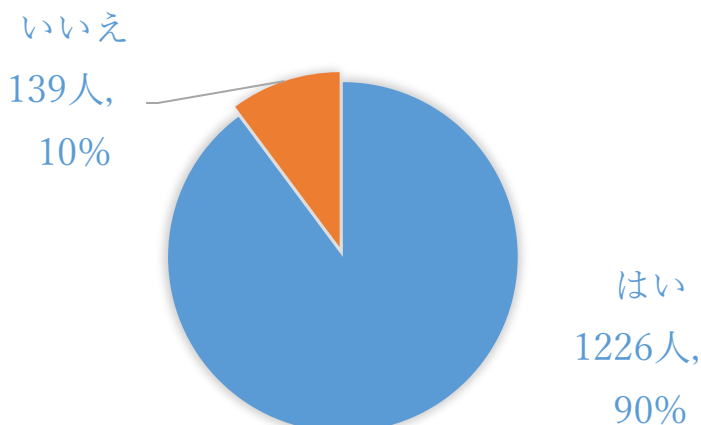


【その他】

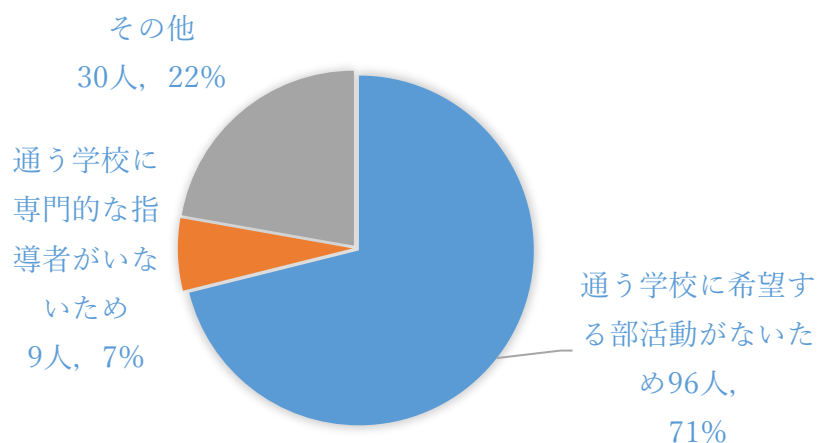
- ・憧れを持ったから
- ・苦手を克服したい
- ・絵をかいたり粘土でフィギュアを作ったりしたい
- ・プロ選手になるため
- ・音楽が好きだから
- ・やっていて楽しいから
- ・科学的ないろんなものをしれるとおもったから
- ・バスケが好きだから など

部活動の目的について、最も多い回答が「体力・技術を向上させるため」次いで「友達と楽しく過ごすため」「チームワーク・協調性・共感を味わいたい」「大会やコンクールで良い成績をおさめるため」となっている。スポーツ活動や文化活動を通して、技術などの向上や努力してきた結果として大会やコンクールの結果を求めている一方で、部活動を通して豊かな人間関係を築きたいという思いが強くあることがわかる。部活動への取り組みが進路実現につながる可能性を考えている生徒も少なくない。その他の回答では、スポーツや芸術など、単純に好きなことに没頭したいという意見があった。

③現在所属している部活動は、一番取り組みたい
スポーツ活動や文化活動ですか？



④ ③が「いいえ」の理由は何ですか？

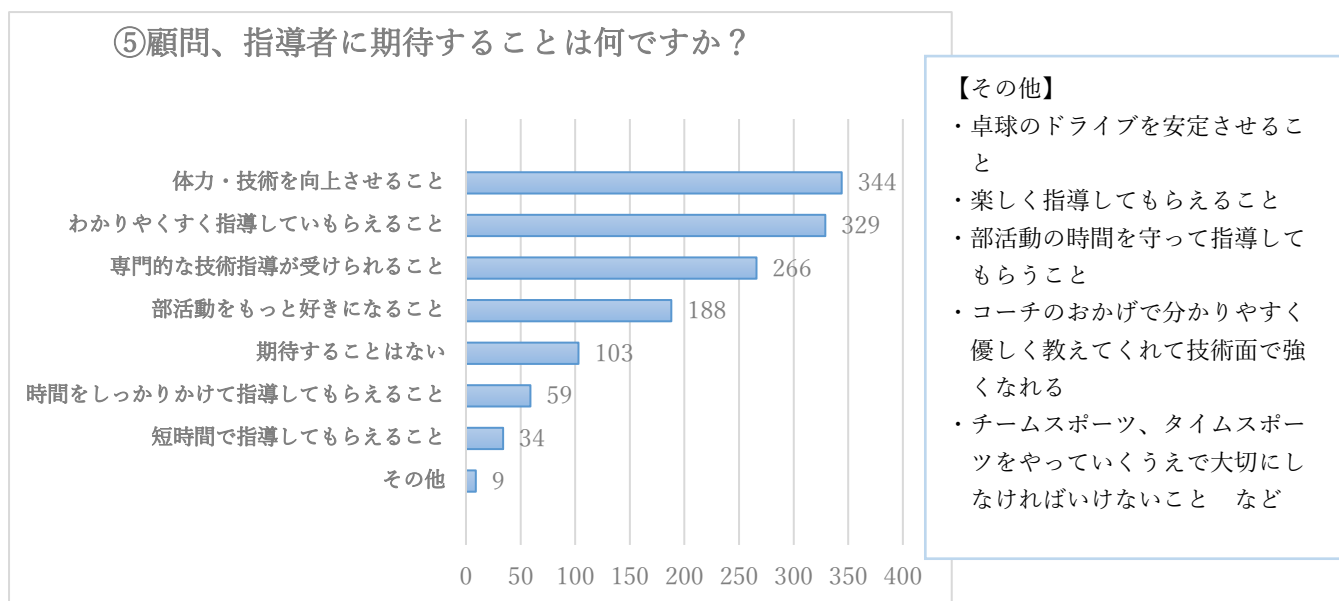


【その他】

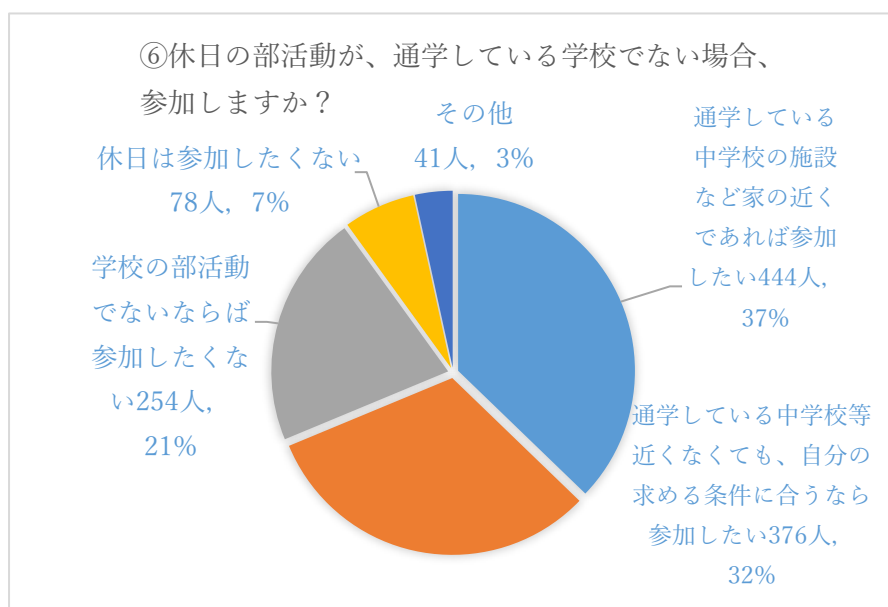
- ・特に好きなのがなかった
- ・クラブチームで野球をしているから
- ・スポーツなら何をやってもいいから、一番ではないため
- ・入部当初からの環境の変化
- ・クラブの野球を優先しているため など

9割の生徒は、自分が取り組みたい部活動に加入できている。ただし、学校規模によっては、顧問が足りない等の理由から、部活動の種類については限られている。小規模校では、生徒数も少ないため、チームスポーツ等は、チームを構成する人数を確保するためには、種類そのものを少なくする必要がある。

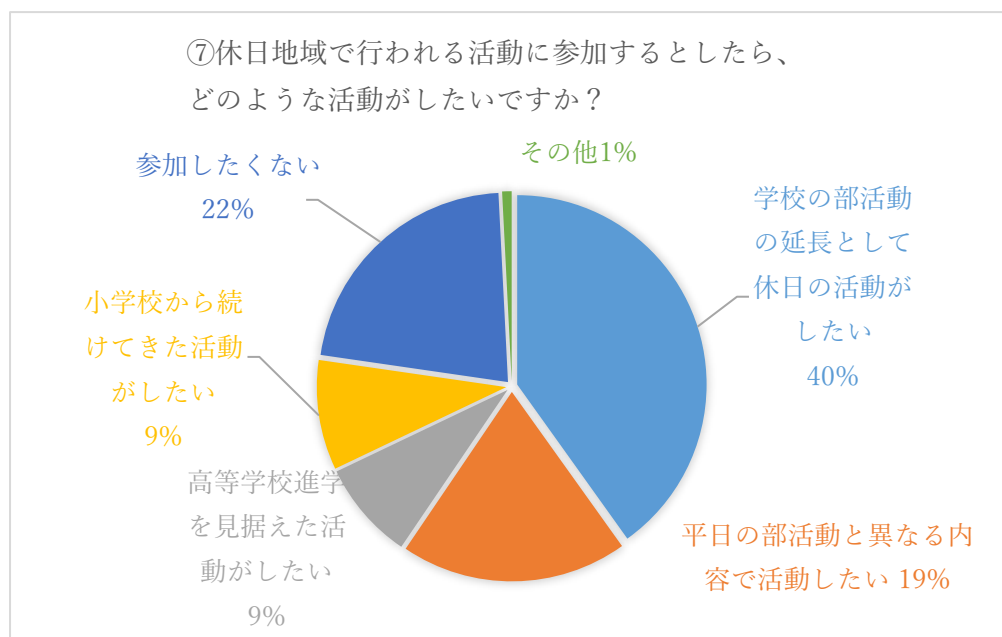
「いいえ」と回答した79%（139人）は上記の理由である。全体の7～8%にあたる。ただし、女子は設置されていても、男子は設置されていないという部活動も学校によってはある。「専門的な指導者がいない」の回答は全体の9人で7%である。



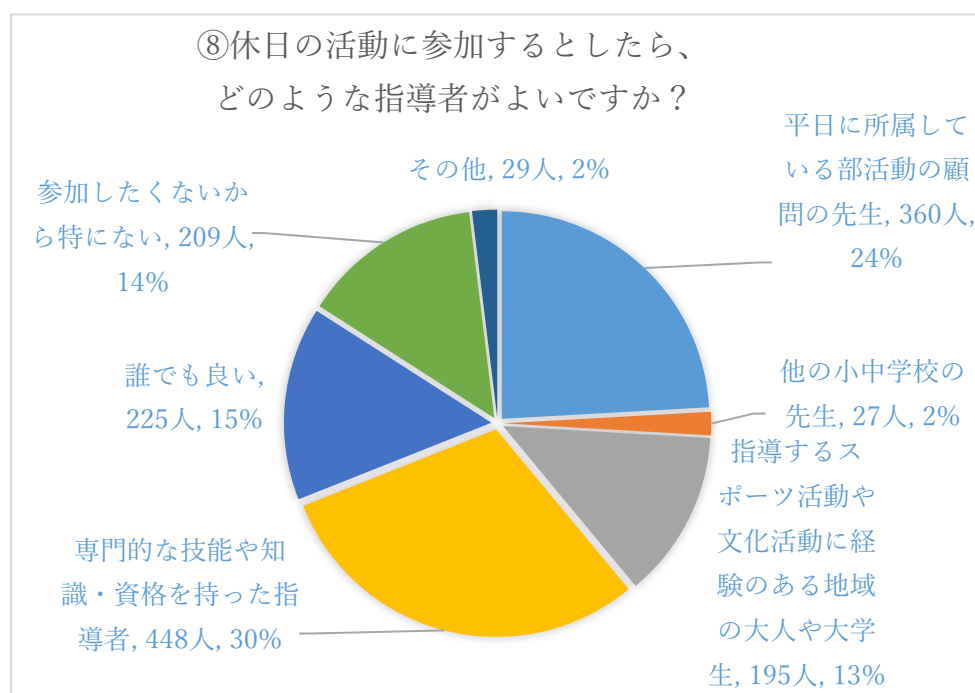
顧問、指導者に期待することについて、「体力・技術を向上させる」「わかりやすく指導してもらえる」「専門的な技術指導が受けられる」の順が多い。これは、②の部活動の目的と一致することであり、目的に対して、それを支援できる顧問や指導者を生徒は求めている。また、「部活動がもっと好きになる」の回答については、チーム等の集団の人間関係が上手く構築されないとならないため、指導者は技術指導だけでなく、豊かな人間関係を築けるような指導が必要である。



「通学している中学校など近くであれば参加したい」が37%、「通学している中学校でなくても、自分の求める条件にあうなら参加したい」が32%であり、約70%の中学生が休日の部活動が地域移行した際に参加する意志があることがわかる。条件によって参加しない生徒ももちろん出てくることの考慮も必要であるが、中学校1年生から3年生までが加入する1学期（4～7月）は、2,000人近い加入者が見込まれる。



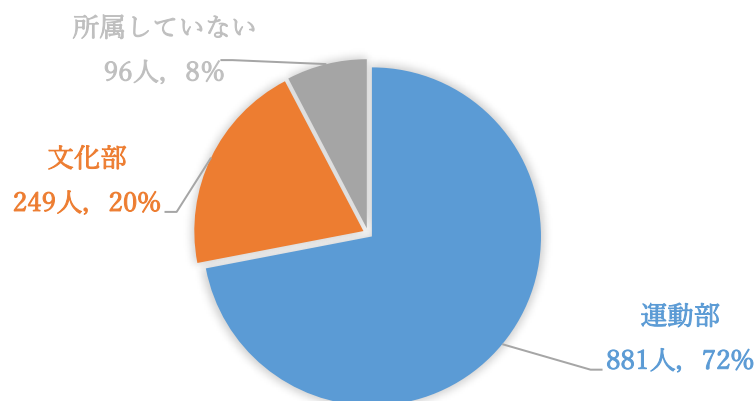
「学校の部活動の延長として休日の活動がしたい」が40%と最も多いが、「平日の部活動と異なる内容で活動したい」が19%で、加入している部活動以外のスポーツ活動や文化活動に取り組みたいというニーズもあることがわかる。



「専門的な技能や知識・資格を持った指導者」が30%と一番多く、「経験のある地域の大人」「誰でもよい」を合わせると約60%は、指導者は学校の顧問の先生に限らなくてもよいことがわかる。しかし、スポーツ活動や文化活動の専門性や経験があるべきことは、結果から見てとれる。

(2) 中学校1・2年生保護者の回答結果

①お子さんは、学校の部活動に所属していますか？



②お子さんが部活動に所属している目的は何ですか？



- ・本人がバスケが好きだから
- ・勝利勝ち負けを追求する勝利至上主義ではなく、一人ひとりの部員やチームの成長を第一とする成長至上主義、目標に向かって、一所懸命努力すること、心と体がバランス良く生まれ、その後の人生を導く財産になると考えて部活動をさせている
- ・好きなことを他人と共有するため

子どもが部活動に取り組んでいる目的については、取り組むスポーツ活動や文化活動などの技能の向上や大会等でよい成績をおさめること以上に、仲間との豊かな人間関係を築きながら、集団への帰属意識を高めたり、その仲間たちとの共感を味わったりしてほしいと考えている保護者が多くいることがわかる。

③休日の学校部活動を地域の団体に移行した場合、

お子さんは参加できますか？

学校の部活動でない

なら参加できない

59, 5%

通学している
中学校でなく
ても、子ども
が希望する条
件に合うなら
参加できる
329人, 27%

休日の活動に
は参加できな
い105人, 8%

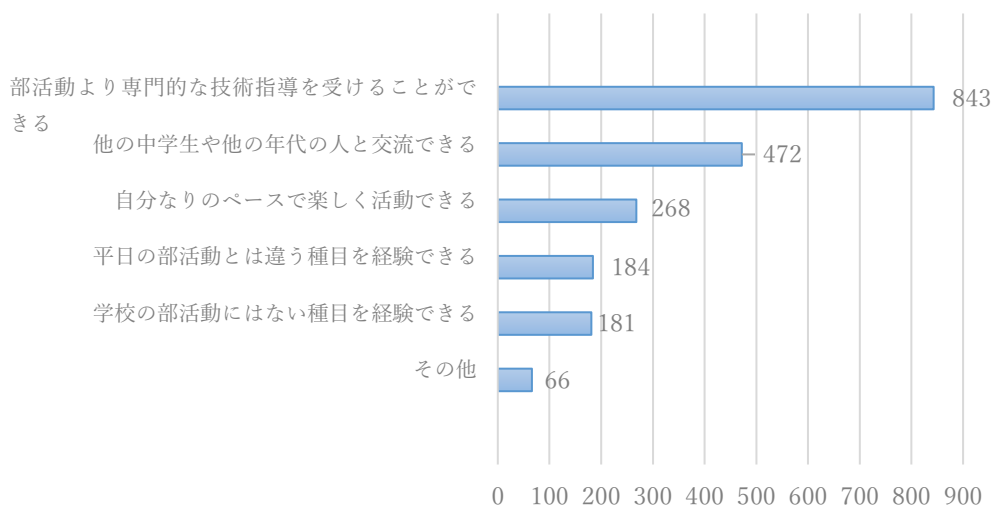
通学している
中学校の施設
など家の近く
であれば参加
できる731人,
60%

【その他】

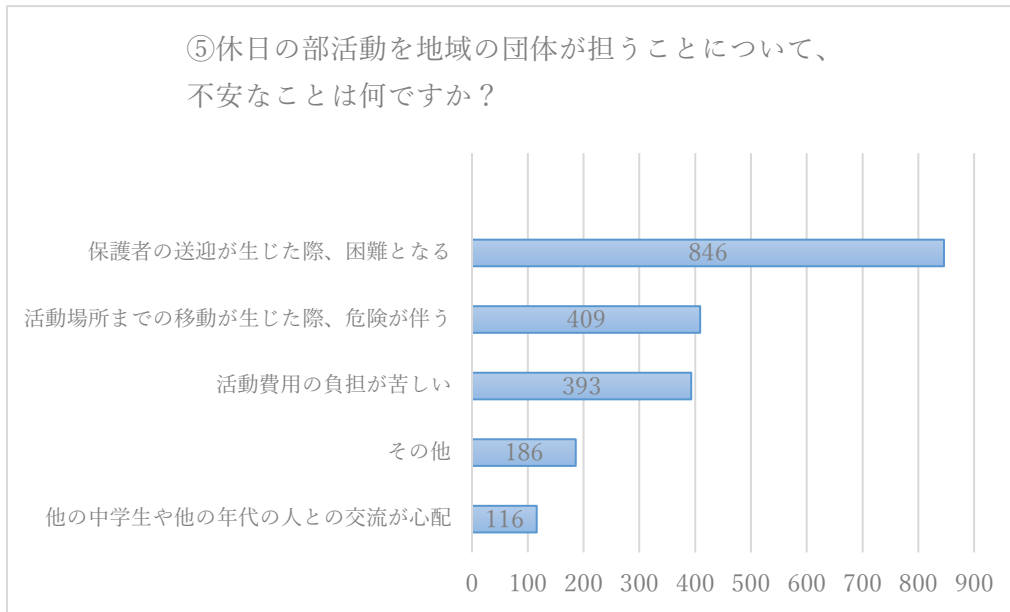
- ・小学生の時からやっていた習い事を続けてやっていきたいため
- ・子供がやっているスポーツの部活がない
- ・好きなことを他人と共有するため
- ・絵を描くことが好きだから
- ・何となく部活は入らなくてはいけない雰囲気なので

通学している中学校の近くが最も多く約6割であり、希望する条件が合えば通学している中学校でなくてもよいが約3割となった。

④休日の部活動を地域の団体が担うことについて、期待することは何ですか？



現在の部活動よりも専門的な技術指導を受けられるとする期待は大きく、通学している中学校に限らず他の学校の人や他の年代の人との交流も次いで期待されている。学校の部活動とは異なる種目や、学校の部活動にはない種目への参加も希望がある。



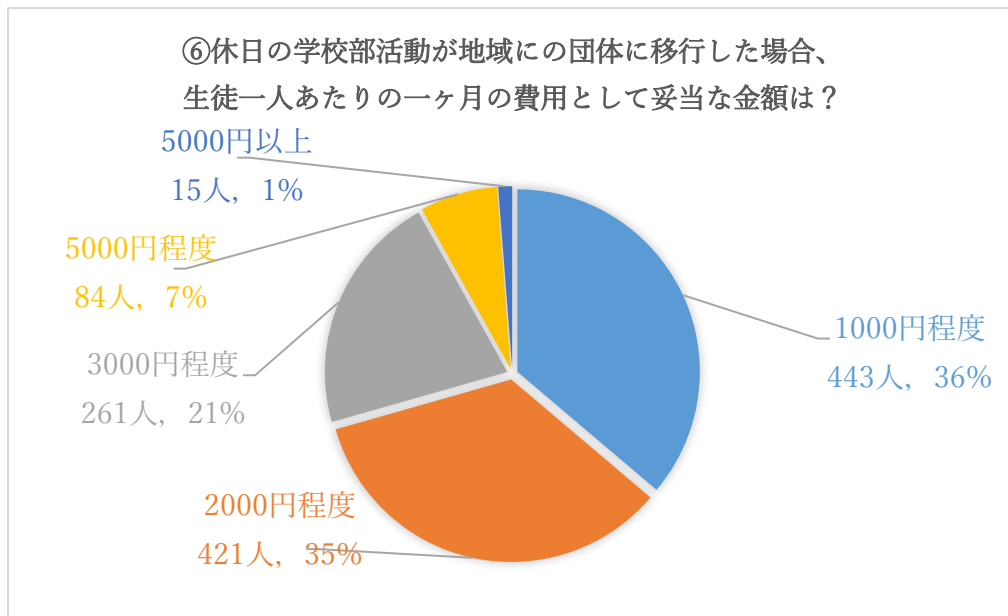
最も多くなったのは、地域クラブ活動が行われる場所（施設）が通学する中学校よりも活動場所が遠くなった際の送迎の不安についてである。保護者が送迎できない、距離が遠くなり自転車等を使用した際の危険が伴うことも不安な点として多くなっている。

【その他の意見】 指導者について 指導者と学校の連携について 安全面について
活動場所について 費用について その他

- ・顧問の先生と指導方法が違った場合、子ども達が混乱するのではないかな
- ・外部コーチに委託するなら部活動制度は撤廃した方がいい
- ・地域の指導者の方針と学校の方針のすり合わせがうまくいくか。学校の部活動である以上、学校の先生の指導の元で地域の指導者が動くようにしてほしい
- ・指導者がどんな人なのか、どんな指導をしているのか不透明。例えば、両親が送迎時など見学出来るのか等。また、費用が毎月発生するなら、部活動ではなく習い事のような気がする。地域差で我孫子市の場合は料金がかかるのか？他市町村もかかるのか？少子化対策でかからない方法はないのか
- ・きちんと学校と連携して情報を共有し、こどもの事を個々に理解してもらえるか？という心配また、共有した個人情報を守秘してもらえるかという心配
- ・参加できない部員が出てくると、限られた練習しかできなくなる
- ・場所によっては朝早く起きたり帰りが遅かったりすると睡眠時間が削られるのが心配
- ・現状が変更され、知らない方の知らないやり方で指導される、ということに対して不安
- ・平日の指導者（教員）と地域団体の指導者の指導内容（方法）が違った場合の対応
- ・指導者の顔が保護者には見えない(知らない方という意味で)ので、何かあったときにコミュニケーションがとりにくいのではないかな
- ・不祥事が起きた際の責任の所在
- ・指導者の適性、事件事故災害等発生時の連絡がすみやかに行われるか
- ・費用の負担が増えただけで今までとなんの変わりもないという声があり、そのようにならないか心配

- ・ 地域の指導者の質による虐待やハラスメント行為または仲間同士のいじめ等
- ・ 本来の部活の活動が停滞してしまうのではないかと心配
- ・ 参加する個人の特徴を理解していない事によるコミュニケーションミスが起きないか心配である
学校での指導方法と異なった場合混乱を招く。学校の部活じゃないなら行かないと安易に考えてしま
わないか心配
- ・ 過度な指導によって子供が部活動をイヤになる
- ・ モデルケースの事例がないので何とも言えない
- ・ 学校の先生は休めているのかと思います
- ・ 指導者との連携が必要となってくるでしょうが、それは先生方の負担が増すだけではないのか。部活動
が教育の一貫であることはどう考えるのか。休日担当の地域団体等が教育の一貫であるということ
を理解したうえで指導にあたることはできるのか？難しい年頃の子供たちがのびのびと打ち込める機会
を奪ってないか。
- ・ トラブルがあった時の責任の所在。送迎ができないために参加できない等の不公平。外部とのやり取り
などが増え、教員の負担増にならないか
- ・ 指導者のキャリア、バックグラウンドチェックが活きているか
- ・ 指導者により内容の差がうまれると思う。活動する団体、地域は選べるのか？
- ・ 教員免許を取得した人ではないため、子供を精神的に支援するなど、教育という観点が欠落しないか懸
念が残る
- ・ 人格の健全性、財務の透明性
- ・ 生徒が混乱しないように顧問の先生と目指す方向性を同じにしてもらえるかどうか
- ・ 平日練習が週3で毎回1時間半しか部活がない現状で、週末はチームのメンバーが揃ってのチーム練習が欠かせないが、他校や学年違いの子も一緒だと団体競技は合わせる時間が足らず、上達しないように思う
- ・ 関わる人の信用性、性犯罪に巻き込まれないかが不安
- ・ 技術向上に繋がるのであれば、不安はありません。サポートするつもりです
- ・ 外部の指導者がどういった人なのか把握できない
- ・ 今既に学校の部活と地域の団体に通っています。不安のことは特に無いですが、子供は学校の方がもっと大事にしています
- ・ 指導して下さる方が指導者としても、学生と関わる大人としても信用出来るかどうか。体罰、性犯罪等
があっても他の大人が気付きにくくなり対応が遅れたり被害生徒が被害を訴えたりしても証拠がない、
加害者側が否認している等の理由で揉み消された挙げ句更に被害に遭うなどの可能性を心配していま
す。
- ・ 6の質問で1000円程度にチェックをしたがお金をとるのが納得できない。すでに活動費としてお金を
出している
- ・ 指導者と子どもの関係性
- ・ 外部の方に託した際の、怪我や部活内での問題対処に不安がある。
- ・ 練習量が増える、試合数がこれ以上増えたら嫌だと思う
- ・ 教員以外の指導者が、中学生の心身や発達にどの程度理解があるのか、誰がどのように判断するのか

- ・ 指導者との相性
- ・ 指導者の人柄。どんな人が教えてくれるのか
- ・ 地域の指導者が生徒ひとりひとりの個性を把握せずに指導されるのではないかと心配です。部活動の指導は、技術を教えるだけではないと思いますので
- ・ あまり極端に遠い活動場所でない方がいい
- ・ 活動場所が、交通が不便な所になってしまう事、保護者の送迎は曜日や時間帯によっては出来ない時もあるかもしれない事です
- ・ そもそも部活の地域移行は別途料金なのかどうか
- ・ 低所得者世帯、子供が多い世帯にとっては、部活動費が毎月発生するのは死活問題。毎月のように部活動の遠征にかかる費用をととても苦しい中で負担しています。これ以上、部活動に係る費用が増額されると部活を辞めるしかない
- ・ 平日の活動方針と指導内容がちぐはぐになること
- ・ 指導者と子どもの目指す価値観の解離
- ・ 指導してくださる方の信用度
- ・ 練習時間が減ったり融通がきかなくなったりするかもしれないこと。地域移行により同じ中学の部活メンバーが減るかもしれないこと
- ・ 指導者が知らない人だと不安
- ・ 学校の先生がやってくださるのなら、普段の生活を絡めた生徒指導的なものもしていただけるのかもと思いました
- ・ セクハラ、パワハラ的な指導がないようにしていただきたい。世の中の事件を鑑みれば、いつおこってもおかしくない環境です。教育委員会のほうで、指導者の入口セキュリティチェックは当然のこと、指導期間中においても抜き打ち的なチェックをお願いしたい。指導者の技術スキルは尊重するものの、貴方方は、いつも見られていますよ！という環境を作って欲しい。勢い余ってパワハラ、誰も見てなきゃいいや盗撮とか、一つ間違えれば、子供たちの心にグサッとささってしまう環境があり得るということを教育委員会はもとより保護者が理解し子供達を守ってあげなければならない。
- ・ 活動費用の負担が苦しい
- ・ 指導者の人格等が不安
- ・ 教員以外の指導者の指導方法によっては子供の精神的肉体的負担が大きくなる
- ・ 部活動と教える内容が異なると子供が混乱する。上手い下手で差別が助長しないか
- ・ 指導者が中学生相手として、指導できるか？技術だけでなくマナーも指導できるか？閉鎖的ではないか？監査的な人がいて、その指導者に意見が言えるか？行政も監視してほしい
- ・ 費用を払ってまで部活を外部でやる必要があるか疑問
- ・ 事故があった時の責任は？指導資格は？
- ・ 今年の夏の猛暑みたいに、生徒の体調など安全面の知識があるのか疑問。配慮ができるのか
- ・ 子供の安全を配慮できるか
- ・ 強くなる事だけが目的で、本来の部活の意義がなくなりそう など



2,000円程度までの回答で約70%であり、受益者の負担はできるだけ小さくしてほしいとの考えがわかる。負担があることが前提となっていることに対する意見が、⑤にもある。

2 結果をもとにした考察

今回のアンケート調査を通して、これまで中学校教員が顧問として担ってきた部活動が、生徒の心身の成長のために果たしてきた役割が改めて大きなものであったことを再認識した。ほぼすべての教員が顧問として、場合によっては経験のないスポーツ活動や文化活動の指導を行い、競技大会や音楽コンクール等の運営、使用施設や用具の管理、健康・安全面への配慮、怪我等への救急対応、部活動費用の適正な活用、保護者や地域住民との連絡や調整を行ってきた。

令和7年度中の休日部活動の地域移行完了を目指していくなかで、我孫子市の中学生やその保護者へのアンケート調査結果をもとに、休日の中学校部活動を地域クラブ等へ移行した際に、どのようなかたちで行うのか、実際に生徒がこれまで部活動に求めてきた目的を果たすことができるよう、さらに保護者の不安を最大限取り除けるようにすることが必要である。しかし、指導者の人材確保は最大の課題であり、さらに中学生の発達段階を理解した関わりができるなど、技術指導以外にも指導者として質の保証を保護者は求めている。以下に、アンケート結果をもとにした考察を行う。

(1) 部活動の目的について

部活動は教育課程に位置づけられていない、教育活動の一環として位置づけられている。指導者を「顧問」＝「相談を受けて意見を述べる者」としていることから、あくまでも生徒の自主的活動であるとされてきた。しかし、実際には大会やコンクール等への成果を出したいという生徒たちの思いに応えるために、勝利至上主義の名のもとに長時間の活動がされることもあった。しかし、令和元年、我孫子市においても国や県のガイドラインを受けて、「部活動ガイドライン」を策定し、「学習意欲の向上や責任感、友情を深める等の好ましい人間関係を形成する」「自主性や自治能力の育成、充実感をもたらす」「体力の向上、健康の管理」を部活動の意義として位置づけている。

つまり、部活動の目的は「大会やコンクール等で結果を出したい」という生徒の期待に応えながら、「豊かな人間関係を築かせたり、仲間との連帯を味わわせたりする」ことが重要である。単に「勝つための指導にならない」よう、「誰もが部活動と同様にスポーツ活動や文化活動に励み、自己の能力を伸ばしたり、仲間と達成感を味わえたりする」よう指導する。

(2) 指導者について

・指導者の人材確保

指導者の人材確保は地域移行最大の課題である。令和4年度に実施した教職員へのアンケート調査では、兼職で指導者となることを望む小中学校の教員は合わせて81人で、現在の顧問の総数約160人の半数にとどまった。また、部活別では、ソフトテニスや卓球などは指導者がかなりの人数が不足することが想定される。

我孫子市では、令和5年度6月から部活動指導員を6校中5校の中学校に配置し、11月現在14人（11月に1名追加で任用）が部活動指導にあたっている。令和6年度は30人に拡充する予定で、状況をみて令和7年度にも増員していく計画であり、今後地域移行の担い手となる人材の発掘をさらに進めていく。

(3) 指導者の指導技術を含めた質の保障

生徒も保護者も、専門的な技術指導を希望している。兼職で希望する教員や地域の指導者などは、自分が指導できる部活動を希望することを考慮すれば、基本的には自身が競技の経験があったり、指導の経験があったりする者が指導者となると想定され、概ね現在実施されている部活動と同等以上に専門的な技術指導が受けられるのではないかと考えられる。スポーツ協会公認の競技別指導者ライセンスなどの取得を義務づけると、指導者に大きな負担となってしまうため、現段階では現実的ではない。

(4) 指導者と中学生との関わり

必要人数分の指導者が確保できたとしても、中学生の発達段階を理解し、適切な関わりをしながら指導できる指導者を保護者は期待している。裏を返せば、どれだけ特定の競技等に長けている者でも、「体罰、暴言などの不適切な指導」を絶対にしないことの理解や「得意不得意、経験値やモチベーションに差がある中学生たちの現状を理解した指導」ができる者でなければ、生徒及び保護者からの信頼を得ることはできない。

顧問の先生は、いつも学校にいる先生である。保護者は何か相談したいことがあったり、気になることがあったりすればすぐに相談できる。しかし、休日だけの指導者には困難になるとの意見が多くあった。部活動と休日のクラブ活動は切り離して考えるべきではないか。平日の部活動のことと、休日のクラブ活動が一体となって実施されることが理想ではあるが、現実的には指導者が異なれば指導が食い違うことも出てくるかもしれない。生徒も保護者も「別物」として受け入れてもらわなければ、地域移行は実現しない。

(5) 健康・安全面等の配慮

指導者として登録し、任用する段階になった際には、市の研修を受けることで、安全面等についての指導を行う場を設ける必要がある。さらに上記の関わりについては、中学生の発達段階を考慮した指導のあり方等についても研修を行い、我孫子市が公認した者が指導者となることが想定される。年間計画に定期的な研修を位置づけるなどして、指導者にとっても大きな負担にならないような配慮をする必要がある。

(6) 活動場所・施設について

活動場所は、部活動と同様に中学校施設を使用することが現実的である。ただし、指導者人数の確保、各部活動加入人数の減少を考慮すると、現在の部活動と同じ数の団体が活動することは困難である。近隣中学校同士（2～3程度）が一つの団体を構成することで、指導者の人数を減らせ、活動場所の余裕も生まれる。ただし、通学している中学校のように徒歩で通える活動場所ではない場合も出てくるが、地域クラブ全体の運営を考えると、現在行われている部活動と同じものを生徒へ提供することは不可能である。

(7) 連絡方法

運営団体と保護者や指導者と保護者間で連絡をとるためのツールが必要となる。これは、連絡用アプリなどの導入をすることによって、活動予定の配信、出欠や緊急時の連絡、大会の申し込み等も行うことが

想定される。

(8) 費用負担について

部活動に従事した時間の報酬は、県から特殊業務手当として教員に支払われている。地域クラブ等に移行した際、ほぼ同額の報酬を支払うことは財政状況を鑑みても難しく、ボランティアに指導を頼るのでは責任の所在が不明瞭となるため、受益者負担の発生は避けられない。柏市では、入会費 5,000 円（保険代・用具代等）、月額 2,000 円となっており、年間で 29,000 円の費用がかかる。困窮世帯に対しては、就学援助費のように、地域クラブ活動に対しても補助金を出すことで、負担を軽減している。これまで休日の部活動が無償（参加費）で行われてきたことが当たり前ではなかったと捉える必要がある。また、年間約 30,000 円の費用負担と、これまでと同様に学校が徴収する部活動参加費（後援会費、運営費等）が同様に保護者にかかるとなると負担は大きくなる。